



NPO
法人

日本高山植物保護協会 JAFFA

2020.1.1 No.91

- 今後の本部事務局運営について
- 南アルプスに想う
- 白馬岳は「ハクバ」か「シロウマ」か？
- 八ヶ岳の稜線での取り組み
- 会員募集キャンペーン事業
- Facebookグループ立ち上げ
- 支部の活動報告
関西支部・静岡支部・昭和大学北岳支部
- 事務局からのお知らせ
- 高山に咲く花
- 高山植物一口メモ



北岳からの日の出と富士山(写真提供：山本義人)

今後の本部事務局運営について

本部事務局：山本義人

この度本部事務局の運営をお手伝いすることになりましたので、所信を述べさせていただきます。

壮大な景色を楽しむ登山者たちに、厳しい環境下で咲く高山植物に関心をもってもらい、当協会の保護活動を理解して支援してもらいたい。それには会員が山小屋での営みを通して、あるいは一緒に登る山仲間として、高山植物のことを語るからこそ説得力があります。

一方、地域での自然保護活動に参加している人たちに高山植物の魅力を伝え、一緒に山に登り高山植物を楽しんでもらいたい。そして当協会の活動を支援してもらえるようにしたい。それには会員が地域活動の仲間として話すからこそ説得力があります。

- ・高山植物の魅力が語れますか。
- ・その保護活動の取り組みについて話せますか。

会員が情報発信力を共有できるようにしていくことが協会の運営にとって必要なことではないでしょうか。

そのためのお手伝いをするのが事務局の役割であり、会員の意見を集約して協会の運営に反映し、会員間の交流の機会を充実していくことを考えていきます。

ホームページに掲載する情報を会員から提供してもらい、逐次公開し、フォトコンテストは掲載された写真の中から選出し、掲載された貴重な記事についても評価していくようにします。またタイムリーな情報交換ができるよう Facebook の運営も図ります。

会員同士が同じ登山道での定期観察会を開催することを推奨します。何人かで観察することで見落としが減り、視点が様々で、気づきが多くなり、感じたこと、知ったこと、考えたことを分かち合えます。観察時期を変え、毎年継続して観察することで、その自然環境がわかってくると、保護したいものが見えてきます。

自分一人では無理でも、仲間がいれば可能になります。それが協会の運営を継続していく意義だと思います。



南アルプスに想う

猪俣健之介(南アルプス市観光商工課・北岳山荘管理人)

「猪俣さん、ヒメセンブリが咲きましたよ！」数年働いてきた経験のあるスタッフが、受付裏で事務をしている私の元に報告にきたのは、9月中旬のことだ。ヒメセンブリはリンドウ科。ハヶ岳と南アルプスにのみ生育する。とりわけ身体が小さく、しかしその数倍もの大きな花卉をつけるのだが、その色たるは美しく、やや銀色を纏う白色を帯びたその可憐な姿は、300種以上生育すると言われる北岳の高山植物の中で、あたかも妖精の様な存在感を見せる。



ヒメセンブリ

その開花確認の背景には、北岳の短い秋が始まったことを意味することをちゃんと彼は知っているから、私に報告するのだ。北岳で最後に咲くヒメセンブリ。この開花は夏に浮かれ冬をどこかに忘れた我々山人たちを、あっという間に白銀の世界に誘う北岳からの冬支度準備の知らせ。逆に、夏の支度を知らせる一番初めに咲く花は、5月下旬のウラシマツツジである。



ウラシマツツジ

この時期は雪や雨、霧が多く、曇り空が続き、茶色の山肌と、灰色の岩、ハイマツの緑と、残雪と雲の白ばかりの世界であり、たまに晴れた時の太陽の照り光や、やがてポツリポツリと咲き始めるミヤマキンバイの黄色に安心と歓びを素直に感

じる季節だ。やがて季節は梅雨に入り、雪とけ直後の北岳南東斜面には世界で北岳にしか咲かないキタダケソウが、雨の中開花を始めていく。



キタダケソウ

この花をこよなく愛した一人が、故塩沢久仙さんだった。南アルプス芦安山岳館長であった塩沢さんが「健之介に見せたいものがある」と山岳館に私を呼びつけ、嬉しそうに楽しそうに、そして興奮気味に私に見せたのは、明治39(西暦1906)年日本山岳会が発行した会報「山岳」1号だった。その初頁に「山岳会設立の主旨書」が記されている。日本の高山は人の心を開放し、人を育て、科学、芸術、文化を発展させるものであり、これを国民や世界の人々に伝えるため山岳会を設立した、この主旨大成させようではないか！と小島鳥水先生ら7名が述べているこの「主旨書」を初めて見せて頂き、どれだけ凄い事かと館長の解説を聞いた時の身震いを今も覚えている。その時館長が「山は壁の無い博物館、額の無い美術館だなあ」と言った。私が「黒板の無い学校。というのは如何でしょうか？」と謙虚に言わせて頂くと、静かに、そして優しく館長は笑ってくれた。私の、いやみんなが好きだった笑顔がいつも、そこに、あった。

高山植物を保護し守る、それは日本山岳会を設立した「主旨」と似ている気がするのは、私だけであろうか。高山植物を守るための条例や法令の制定や、当協会の設立時のエピソードには、白簾会長や塩沢館長の名が良く聞かれ、その背景には必ず芦安村(当時)や山梨県が登場する。私はその当時、高山植物に真剣に向き合った諸先輩方が抱き、未来に託した志を忘れてはいけないと思っている。縁があって北岳山荘で働き28年が経過した今、高山植物のみならず、山岳に情熱を掲げた諸先輩方の夢たちを胸に抱きつつ、今後も北岳山荘の適正管理と当協会の活動に邁進していきたいと考えている。



白馬岳は「ハクバ」か 「シロウマ」か？

菊池哲男(写真家)

高山植物の宝庫で北アルプスの女王と称される白馬岳の名の由来は、田植えの頃、三国境付近に現れる黒い岩壁が馬に見えることから、この馬の雪形を苗代の時期を決める季節の歳時記として農民が利用してきたからとされている。代掻き馬が代馬となり、国土地理院が代馬岳を白馬岳と書き間違えたという説だ。『日本百名山』の著者・深田久弥氏の時代にはすでにこの説が定着しており、著書『日本百名山』にも書き記している。私もこの説を信じて2005年に山と溪谷社から出版した写真集を『白馬 SHIROUMA』とした。

しかし、今、この説の信頼度が揺れている。白馬山麓の、いわゆる地元では白馬＝ハクバだといひ、それは江戸時代の古文書にも記述があるという。何より代掻き馬説はおとし話としては興味深い、あの雪形を暦代わりとするには無理があるというのだ。この白馬岳の黒い代掻き馬は南東面にあり、厳冬期でも晴れさえすれば雪が解けて認識できるし、さすがにこの雪形で苗代の時期を決めると言う説はかなり怪しい。それにどの古文書を探しても代馬岳（嶽）という記述は見当たらないという。

白馬（ハクバ）嶽の記述はすでに文政7年（1824年）頃の地図にあり、今でいう白馬岳から小蓮華山、白馬乗鞍岳にかけての山容が積雪期、白い馬に見たてられたという説が由来となっている。白馬乗鞍は馬の鞍の部分に当たる現在の三国境付近を指したという。実際、白馬岳（シロウマダケ）以外の地名は白馬大池も「ハクバオオイケ」、白馬鍾温泉も「ハクバヤリオンセン」、白馬尻も「ハクバジリ」「バジリ」と呼んでいる。何よ



ミヤマアズマギク（アズマギクの高山型亜種）

り現在では町も駅も白馬を「ハクバ」と呼び、「シロウマ」と呼ぶのは山名と「シロウマアサツキ」「シロウマチドリ」「シロウマリンドウ」などいくつか（10数種類）の高山植物くらいになっている。

実は白馬岳が開山された当初、白馬に入っていた植物学者たち（後に日本山岳会を立ち上げるメンバー）が地元で呼んでいた「ハクバ」を意図的に「シロウマ」と呼ばせようとした文献がいくつも残っており、なぜ彼らが登山界・植物界で「シロウマ」という呼び名にこだわったのか、謎を呼んでいる。

どちらにしてもこれだけ定着してしまった山名はそう簡単には変えられないだろうし、代掻き馬説はそれなりにロマンもあって個人的には悪くないと思う。私にとっての白馬岳は女王なので、「シロウマダケ」の呼び名の方が女性的で柔らかく優しい印象を受ける。もし「ハクバダケ」だと白馬（ハクバ）に乗った王子様を連想させるので、北アルプスでの勢力図が変わってくるかもしれない。それでも地元が主張する歴史ある山名は無視できない。山の名前が地元の呼び名に戻された事例はいくつもあり、最近では北米最高峰のマッキンリーがデナリに改名されたことは記憶に新しい。ここは併記してどちらもOKということが定着することを望みたい。



ハクサンイチゲなどのお花畑と白馬三山



ウルップソウなどのお花畑と旭岳



八ヶ岳の稜線での取り組み

(有)硫黄岳山荘 浦野岳孝

八ヶ岳は2年続けてこの秋も台風の被害をうけました。主要な登山口や登山道が寸断され、安全に通れる状態ではなくなったところもありました。なんとか地元の行政のバックアップを受けて復旧できましたが、この復旧への対処がたいへんでした。資金と労力です。

八ヶ岳は高山植物の宝庫です。特に南八ヶ岳の「赤岳～横岳～硫黄岳」にはたくさん希少種が咲き誇ります。6～7月には登山道沿いに様々な可憐な高山植物を見ることができ、週ごとに咲く花の変化もあり、歩く人を愉しませてくれます。この貴重な植生をなんとか保全し、後世に持続させていなくてはならないと思っています。

今から12～13年前に気づいた高山植物へのダメージは、鹿の食害、踏み荒らしでした。対策として、2010年に初めて横岳の稜線に鹿よけネットを張りました。コマクサの群生地を守るためです。翌年から少しずつその範囲を広げて、また新規柵は電気柵にかえて対処を進めました。現在では、経営する稜線の硫黄岳山荘や根石岳山荘で合計6箇所約1,100mの柵を設置して、希少な高山植物を保護しています。雪とけ後の5月下旬に設置し、降雪の始まる10月中旬には撤去します。資材は森林管理署からの提供で、自前で設置と撤去作業を行っています。

また、私が罾の免許を取得したことにより2011年から山荘周辺で、許可に基づいて鹿の捕獲を行いました。今までに40頭以上が稜線からいなくなっています。

コマクサは種で増える多年草です。種から芽が出て馬の頭に似た「駒草」の花をつけるのには5～7年を要しています。15年くらい前までは横岳の山肌に20年を超えたと思われる大きなコマクサの株が無数にあり、それは見事でした。それが、ごく小さな株だけになってしまい、鹿の踏み跡だらけの山肌になってしまっていました。

やっと最近、この2～3年で保護していた成果がはっきり分かるように見えてきました。若い芽が増えたのと、小さな株がたくさん花をつけてきたからです。毎年7月には、若々しいコマクサの株の見事な花の群落を見ることができます。ただし、保護柵で守られていないところの植物は、まだ引き続き被害を受け続けています。我々の取り組みはあっても、微力であり限定的です。

台風や、鹿の食害の発生など、環境の変化は「急」のものもあり「ゆっくり」としたものもあります。絶えず発生してきているものです。山の中に居る者としてこの変化は肌で感じるものであり、危機を感じさせるものでもあります。

今までの取り組みのひたむきな継続と、辛抱強く対処する「使命感」「意義」を持ち続けなくてはならないと思います。多くの方に取り組みを知っていただき、理解をしてもらい、協力や支援を頂戴していくことがこの意識の持続につながります。山に登り登らないにかかわらず、興味や関心を持っていただき応援していただけたら幸いです。

行政の方々の支援も今までと同じように必要です。それに頼るだけでなく、自らの手でハードやソフトの両面で民間の方々の協力を仰ぎ、進んでいかなければならないとも思っております。



7月に咲くコマクサの花



花は食害、鹿の踏み跡



稜線上に鹿よけネット



会員募集キャンペーン事業

本部事務局

会員勧誘活動の一環として、山小屋を拠点にした会員募集キャンペーン事業を実施しました。

夏から秋にかけての登山シーズンに間に合うように、協会の活動紹介と会員募集を兼ねたポスターを作成し、その配布と掲示は、高山植物が豊富で登山客の多い南アルプス北岳、北アルプス白馬岳、ハケ岳を中心に展開しました。

ポスターの作成は、新事務局メンバーとして広報活動を担う渡邊昭彦氏が行い、北岳、白馬岳、ハケ岳のそれぞれの特徴を表現する山の写真や花の写真に掲載してもらっています。

ポスターの配布は、今後理事として協会の運営に携わってもらう北岳山荘の猪俣健之介氏、硫黄岳山荘の浦野岳孝氏、写真家の菊池哲夫氏、及び地域連絡員の方々に協力してもらいました。

このキャンペーン事業に協力してください！

来年度事業として、協力参加される会員の撮った写真を掲載したポスターをそれぞれ作成します。

会員募集ポスター（ハケ岳） ＊実物は A3 サイズ

日本高山植物保護協会 (JAFPA) は、高山植物全般の保護を目的として設立された特定非営利活動法人です。

あなたもJAFPA会員になりませんか？

登山道で見た可憐な花も、温暖化、酸雨、道草、踏み荒らしにより減少し、中には、絶滅の途程にさらされている種もあります。この状況を憂いた山岳写真家の自派史郎氏は、高山植物保護協会（JAFPA）を各所に広めようとして、日本高山植物保護協会（JAFPA）を設立されました。JAFPAでは、下記の事業および活動を行っており、『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』が制定されました。貴重な高山植物を守り、次の世代に継承に引き継ぐためには、より多くの方の 理解・支援・協力が必要です。ぜひ、あなたのご参加をお待ちしています！詳しくは、websiteをご覧ください。本部事務局までお問い合わせください。

NPO法人 日本高山植物保護協会の事業

1. 高山植物全般についての保護思想の普及および普及事業
2. 高山植物の不法採取、盗掘防止のための監視事業
3. 高山植物の違法な販売および私有地のための監視事業
4. 高山植物群落の活性および復元作業
5. 高山植物の保護、増殖に関する調査および研究作業

NPO法人 日本高山植物保護協会の活動

1. 観察山行
2. 高山植物に関する広範な知識を持つ人材の育成
3. 調査・研究・高山植物の保護・育成・増殖等の研究
4. 全国各地で行われる自然保護の講演会などへの講師派遣
5. フォトコンテスト
6. 会員誌JAFPA通信の発行

NPO法人 日本高山植物保護協会 (JAFPA)
website : <http://www.jafpa.or.jp/>
E-mail : info@jafpa.or.jp
本部事務局 : 〒400-0027 山梨県南都留市富士見1-3-28
TEL・FAX : 055-251-6180

※JAFPA

ご自分の活動拠点の山の特徴が分かる景観や花の写真を本部事務局に送ってください。

Facebook グループの立ち上げ

お知らせとお願い ———— 本部事務局：渡邊昭彦



ホーム画面のカバー写真

日本高山植物保護協会（JAFPA）の Facebook グループを 9 月 10 日に立ち上げました。高山植物の美しさと環境変化等による高山植物絶滅の危機について知ってもらい、JAFPA の理解者と新規会員を増やすことを目的にしています。

JAFPA 情報誌の内容紹介、関係団体の活動紹介、高山植物の写真、自然保護や環境変化の関連ニュースなどが投稿されています。

本 Facebook グループは、Facebook 上で公開していますが、管理者による招待以外の場合、ルールを読んだ後に質問に回答いただく承諾制としています。ルールには、植物の愛護精神、希少植物の情報漏洩の禁止、希少植物の生育場所の掲載禁止などを謳っています。

Facebookグループに参加してください！

会員の皆様には、高山植物をはじめとする季節の花、保護活動のレポ、環境変化などを投稿して頂き、本 Facebook グループを通じて JAFPA を盛りあげていただければと思います。また、ご友人の方々にもご紹介ください。植物に興味のある他グループにも広報活動を行い、メンバーを増やしたいと考えています。その中から JAFPA 会員が出てくることを期待しています。

立ち上げに際しては、南アルプス高山植物保護ボランティアネットワークの運営で Facebook を活用している鶴飼一博氏、三ツ峠ネットワークのメンバーなど多くの方から貴重な助言を頂きました。お礼申し上げます。



関西支部 活動報告

支部長 小谷哲朗

■夏の伊吹山観察山行

夏の観察山行は、当初の7月27日予定を8月17日に延期して行いました。西登山道から登り、シモツケソウなどまだ残っている夏の名残の花を観察しながら頂上へと向かいました。保護柵の中では植生の回復が今年も見られました。例年だとまだ咲きはじめて探さないと見られないルリトラノオがたくさん咲いていました。伊吹山の固有種であり、参加された方は等しく満足されていました。頂上で昼食、記念撮影をしてから、東登山道を下る組と西登山道を戻る組とに分かれて下山しました。



西登山道を登る参加者



ルリトラノオ



伊吹山山頂で記念写真

■恒例の法人部会主催・環境学習会

関西支部法人部会主催の環境学習会は10月26日31名の参加をえて、福井県・美浜発電所を訪れ、美浜原子力PRセンター、美浜発電所構内、エネルギー環境教育体験館「きいばす」を見学しました。



美浜発電所で記念写真

静岡支部 活動報告

支部長 堀池重治

本年度も、鶴飼一博氏を中心に、南アルプス高山植物保護ボランティアネットワークと共に、南アルプスの植生調査及び植生維持・復元活動を行いましたので、その活動日程にて報告します。

■環境省委託事業活動

- ・7月5日～7日：荒川岳の防鹿ネット立ち上げ
- ・9月7日～9日：三伏峠、塩見岳、北荒川岳の植生復元活動
- ・9月14日～16日：塩見岳、三伏峠の土砂流出防止マット設置（高校生参加）
- ・10月4日～6日：荒川岳の防鹿ネット下ろし



聖平の防鹿フェンス修理

■静岡県委託事業活動

- ・5月1日～3日：茶臼岳の植生調査
- ・5月12日、26日：南アルプス南部の植生調査
- ・6月15日：三伏峠の防鹿ネット立ち上げ
- ・6月29日～30日：茶臼岳の防鹿ネット立ち上げ
- ・7月13日～15日：聖平、奥聖岳の防鹿フェンス修理、小型防鹿柵設置、保護ロープ修繕、土砂流出防止マット設置
- ・7月28日：三伏峠の植生回復状況調査
- ・9月14日～16日：三伏峠の防鹿フェンス修繕、防鹿ネット下ろし（高校生参加）
- ・9月21日～22日：茶臼岳の防鹿フェンス撤去、防鹿ネット下ろし



聖平上部の土砂流出防止マット設置



昭和大学北岳支部 活動報告

支部長 木内祐二

昭和大学北岳診療部の夏山活動期間（7月13日～8月20日）と秋期活動期間（3連休中心）に合わせ、日本高山植物保護協会昭和大学北岳支部としての活動を行いました。班ごとに4～5日の交代で活動し、各班で異なる植物を観察することができました。



北岳診療所前での班員

診療所で受診される方の多くは、怪我の他、高山病、熱中症、脱水症状等といった体調不良です。これらを予防し、より楽しく安全に登山してください。

高山植物保護啓蒙ポスター貼付



高山植物保護を訴えるポスターを作成して、白根御池小屋、肩の小屋、北岳山荘および北岳診療所に貼付し、登山者に対する啓蒙活動を行いました。

登山道でのゴミ拾いなどの活動



今年は天候が悪かった日も多かったのですが、そのような中でも、診療班の交代時を中心に登山道のゴミ拾いやパトロールを行いました。

事務局からのお知らせ

◎フォトコンテスト作品募集

山の自然の中で咲いている花の写真を募集します。花の咲いている自然への感動、出会えた花への感謝、貴重な瞬間をとらえた感激を共有させてください。

従来のプリント応募部門に加え、電子メール応募部門を設けます。花のアップだけでなく、花と風景のコラボの写真もお願いします。貴重な写真を待っています。

●プリント部門：一人3作品まで

作品の大きさ：六つ切、または四つ切

●電子メール部門：一人2作品まで

作品の大きさ：縦横比 3:4～2:3、
画素数 6～8M

●募集締め切り：令和2年2月20日

●審査委員：理事会メンバーから選出

入賞作品は総会で表彰するとともに、情報紙とホームページで紹介します。

応募に際して、花の名前、撮影年月日と撮影場所、氏名、会員番号、連絡先を記載してください。

会長の白簾史朗氏死去

会長の白簾史朗氏が2019年11月30日ご逝去されました。山岳写真家として活躍される一方、高山植物に造詣を深め、その保護活動のため日本高山植物保護協会を立ち上げ、NPO法人登録に尽力され、これまで会長として会の運営を指導してこられました。謹んで感謝と敬意を表し、心よりご冥福をお祈りします。

令和2年1月1日発行

特定非営利活動法人 日本高山植物保護協会

〒400-0027 山梨県甲府市富士見 1-3-28

TEL・FAX: 055-251-6180

HPアドレス: <http://www.jafpa.gr.jp>

E-mail アドレス: info@jafpa.gr.jp

2020年2月20日に事務所を移転します。

新住所: 〒400-0806 山梨県甲府市善光寺 2-11-8

高山に咲く花 (新井和也氏遺作)

新井和也氏のご家族(会員)のご厚意で、故人の撮られた写真をJAFPAが使わせていただけることになり、その一部を遺作として掲載しています。



コウシンソウ タヌキモ科



タカネマンテマ ナデシコ科



トチナイスウ サクラソウ科



リシリヒナゲシ ケシ科



カムイビランジ ナデシコ科



サマニユキワリ サクラソウ科

●高山植物一口メモ エゾコザクラ (サクラソウ科)

エゾコザクラは、東アジア北部、アラスカに分布し、北海道の高山帯の湿原に生える多年生の草本で、葉は倒卵形、基部は楔形でやや多肉質で、縁には牙齒がある。

7月～8月、高さ5～15cmの1本の花茎を出し、1～5個の紫紅色の花を開く。中心部は黄色、裂片は二裂する。

エゾコザクラの和名は、1902年、牧野富太郎博士によって命名された。

エゾコザクラは大雪山を代表する花の一つで、雪どけを追うように咲く。そして、素晴らしい大群落、赤いカーペットを作るのです。

今年の大雪では、もう一つの大雪を代表するレモンイエローのキバナシャクナゲに会えました。さらに、ここの固有種のギンザンマシコという赤い鳥にも、会うことができました。群落の素晴らしい大雪でした。(文と写真 大内京子)

